

平成17年度決算報告

学校法人 千葉敬愛学園

学校法人千葉敬愛学園の平成17年度決算は、監事及び公認会計士の監査を受け、平成18年5月26日(金)の理事会及び評議員会において審議の結果、別表の通り決定しました。

1 事業の概要

千葉敬愛学園は、「天を敬い、天を愛する心をもって、人を愛する」という建学の精神、「敬天愛人」に基づいて、学園創設以来有為な人材を育成し世に送り出してきました。21世紀という新しい時代に入り、グローバル化、IT革命等世界は大きく変化しつつあり、本学園を取り巻く環境も大きく変わりつつあります。

今、社会が必要としているのは、21世紀のフロンティアを切り開いていく人材です。大学では、実践的なIT教育や国際交流を通じた人間性豊かな人材育成を目指しています。短期大学では、少子化への支援に資する新たなニーズに向けて幼保・小幼コースによる資格取得を重視した人材育成を目指しています。高校では国際交流、進学指導等の充実・強化、更には課外活動への積極的な参加の促進等を実践しています。幼稚園では、保護者のニーズに応えた園バスの運行、課外教室の多様化、縦割保育等を展開しています。こうした実践的な学習プログラムと人間性豊かな学風とによって、21世紀が求める心と新しい技術を兼ね備えた人材を育てていきます。

一方、教育環境面では、第二次中期経営計画最大の事業である千葉敬愛高校校舎建設は、15年度に体育館棟、16年度校舎特別棟(情報教室, 実験・実習室, 教科準備室など)、17年度普通教室棟が完成し、18年度には外構工事等(正門来校用駐車場など)を予定しています。また、稲毛キャンパス・佐倉キャンパスにおいても施設等の改修を計画に沿って実施しています。

◆主要事業（施設設備関係）

1. 千葉敬愛高等学校校舎建築事業（平成14年から平成18年度までの継続事業）
平成14年度からの継続事業として平成17年度まで、体育館棟及び校舎棟が完成。
総経費38億1,000万円のうち、17年度14億7,400万円支払済。支払累計額37億2,300万円。
体育館棟（長戸路アリーナ） 鉄筋コンクリート造地上3階、地下1階 3,529.54㎡
特別教室棟（校舎A棟） 鉄筋コンクリート造陸屋根5階建 4,502.97㎡
2. 敬愛大学経済学部貴重図書資料（マイクロフィルム）購入
（教育研究装置及び研究設備整備等補助金）
3. 短期大学音楽室（音楽研究室）等防音工事、ピアノ取替更新（年次計画）
4. 千葉敬愛高校情報教育用機器購入
（私立学校IT教育推進設備整備事業/特別補助金）
5. 学園高校2号館トイレ改修工事
6. 短期大学附属幼稚園廊下改修工事

2 財務の概要

17年度決算について、その概況を報告いたします。なお、金額は百万円単位で示しています。

(1) 資金収支計算書

(収入の部)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	3,966	3,965	1
手数料収入	107	96	11
寄付金収入	74	67	7
補助金収入	1,112	1,119	△ 7
資産運用収入	56	62	△ 6
資産売却収入	91	276	△ 185
事業収入	24	20	4
雑収入	368	375	△ 7
借入金等収入	960	960	0
前受金収入	1,721	1,646	75
その他の収入	967	958	9
資金収入調整勘定	△ 2,210	△ 2,194	△ 16
(当年度収入計)	7,236	7,350	△ 114
前年度繰越支払資金	4,145	4,145	
収入の部合計	11,381	11,495	△ 114

資産売却収入は、有価証券の売却と休校地の売却等により予算を上回りました。

資金収入合計額は、予算を1億1,400万円上回りました。
 主な要因は、補助金収入及び資産運用収入、雑収入等が見込みを上回ったことによるものです。また、日本私立学校振興・共済事業団から千葉敬愛高校校舎建築資金として当初計画通り、本年度は9億6,000万円の借入を実行しました。また、千葉敬愛高校校舎建設に伴う特定資産の取崩により、調整を行いました。

(支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費支出	3,884	4,001	△ 117
教育研究経費支出	1,196	1,171	25
管理経費支出	215	200	15
借入金等利息支出	39	39	0
借入金等返済支出	61	61	0
施設関係支出	1,463	1,432	31
設備関係支出	116	118	△ 2
資産運用支出	0	719	△ 719
その他の支出	319	327	△ 8
資金支出調整勘定	△ 533	△ 572	39
(当年度支出計)	6,760	7,496	△ 736
次年度繰越支払資金	4,621	3,999	622
支出の部合計	11,381	11,495	△ 114

人件費は、教職員の採用による増加、選択定年退職者の増等により大幅に見込みを上回りました。

施設関係支出は、千葉敬愛高校校舎棟の完成が18年度当初の予定より2ヶ月短縮した事に伴い、建設仮勘定を精算し備品や経費へ計上した為、予算を下回りました。

資産運用支出は、減価償却引当特定資産等へ組入を行いました。

当年度資金収支差額	476	△ 146	622
-----------	-----	-------	-----

当年度収支差額は、資産の売却及び特定資産の見直しと人件費増等により予算を上回り、支出超過となりました。

※ 上記の表の金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計額が一致しない場合があります。以下同様であります。

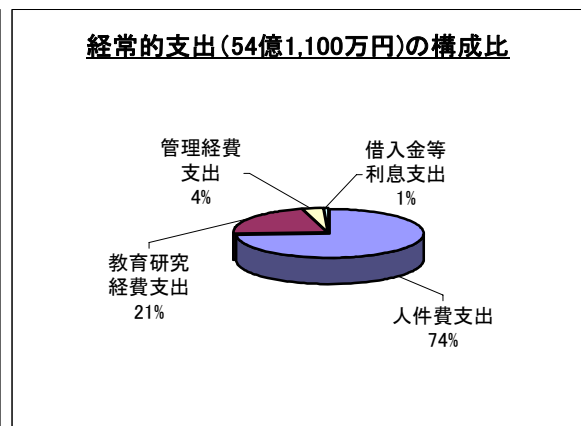
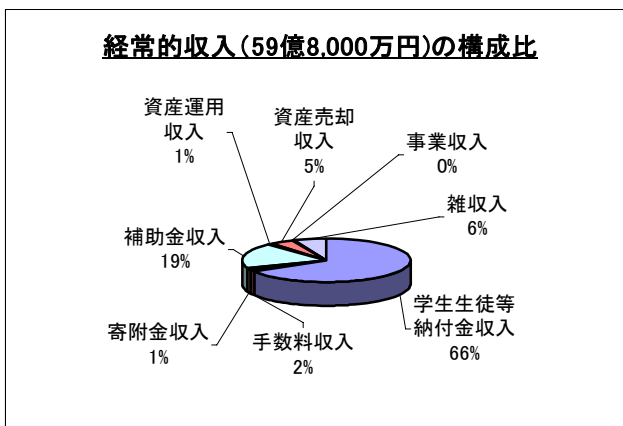
☆ 経常的収支計算書（資金収支計算書）

資金収支計算書の中から経常的な収支科目を比較しているものです。予算編成の中で、資産取得等の収支を除いた経常的な収支状況を示したものであります。

収入は予算を1億8,200万円上回り、支出は予算を7,700万円上回りました。その結果、経常的収支差額は1億500万円の収入超過となりました。この主な要因は、資産売却（有価証券と休校地の売却）によるものであります。

収支差額比率（経常的収支差額/経常的収入）は、9.5%となり前年度決算を0.3ポイント上回りました。

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	3,966	3,965	1
手数料収入	107	96	11
寄附金収入	74	67	7
補助金収入	1,112	1,119	△ 7
資産運用収入	56	62	△ 6
資産売却収入	91	276	△ 185
事業収入	24	20	4
雑収入	368	375	△ 7
経常的収入計	5,798	5,980	△ 182
人件費支出	3,884	4,001	△ 117
教育研究経費支出	1,196	1,171	25
管理経費支出	215	200	15
借入金等利息支出	39	39	0
経常的支出計	5,334	5,411	△ 77
経常的収支差額	464	569	△ 105



(2) 消費収支計算書

(収入の部)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	3,966	3,965	1
手数料	107	96	11
寄付金	83	79	4
補助金	1,112	1,119	△7
資産運用収入	56	62	△6
資産売却差額	8	2	6
事業収入	24	20	4
雑収入	149	157	△8
帰属収入合計	5,505	5,500	5
基本金組入額	0	0	0
消費収入合計	5,505	5,500	5

帰属収入合計は、補助金、施設利用料等の資産運用収入が予算を上回りました。一方、手数料(検定料)の減少があり帰属収入合計としてはほぼ予算通りとなりました。

基本金組入額は、校舎棟が完成しましたが、除去した建物、2号基本金との振替により組入れは行いませんでした。従って、今年度は帰属収入合計と消費収入合計が同額となりました。

消費収入は、帰属収入から当年度資産取得等した基本金の額を控除した収入であり、この収入で消費支出を賄えていれば永続的な教育活動が可能であると言われています。

(支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費	3,622	3,742	△120
教育研究経費	1,696	1,664	32
管理経費	225	209	16
借入金等利息	39	39	0
資産処分差額	46	20	26
徴収不能額	37	38	△1
徴収不能引当金繰入額	34	37	△3
消費支出合計	5,699	5,749	△50
帰属収支差額	△194	△249	
消費収支差額	△194	△249	
前年度繰越消費支出超過額	2,157	2,157	
基本金取崩額	0	234	
翌年度繰越消費支出超過額	2,351	2,172	

人件費は、教職員の採用による増加、選択定年退職者の増等により大幅に見込みを上回りました。

教育研究経費では、奨学金、リース料、減価償却額などが予算を下回りましたが、光熱水費、修繕料などは予算を上回りました。

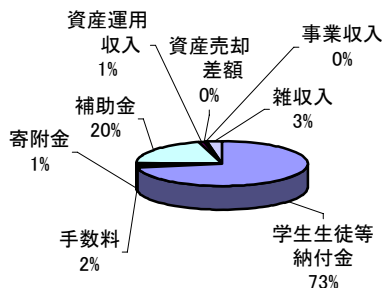
消費支出全体では、会計方針の変更により有価証券の時価評価や徴収不能引当金(※1)を計上した為、予算を上回りました。

当年度消費収支差額は2億4,900万円の支出超過となりましたが、当年度2億3,400万円の基本金取崩しにより、消費収支差額は21億7,200万円の支出超過となりました。

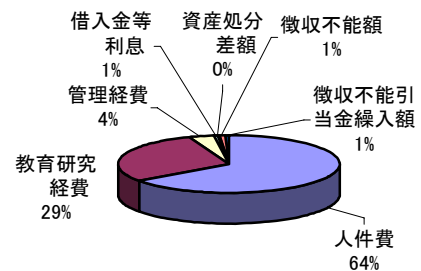
(※1) 徴収不能引当金

学校会計では、学納金は納入如何にかかわらず全額計上することになっており、未納分は未収入金として会計処理しています。このため徴収不能に備えあらかじめ徴収不能引当金として繰入を行うものであります。

帰属収入(55億円)の構成比



消費支出(57億4,900万円)の構成比



(3) 貸借対照表

資産の部

科 目	本年度末	前年度末	増減
固 定 資 産	15,411	14,486	925
有 形 固 定 資 産	13,320	12,307	1,013
そ の 他 の 固 定 資 産	2,092	2,179	△ 87
流 動 資 産	4,613	4,806	△ 193
合 計	20,024	19,292	732

有形固定資産は、敬愛高校校舎の完成により前年度に比べ、10億1,300万円の増加となりました。

資産全体では、敬愛高校校舎建設資金である施設設備特定資産を清算し、減価償却特定資産などへ繰入を行った結果、7億3,200万円の増加となりました。

負債の部、基本金の部、消費収支差額の部

科 目	本年度末	前年度末	増減
負 債 の 部	5,939	4,958	981
固 定 負 債	3,375	2,555	820
流 動 負 債	2,564	2,403	161
基 本 金 の 部	16,257	16,491	△ 234
消 費 収 支 差 額 の 部	△ 2,172	△ 2,157	△ 15
合 計	20,024	19,292	732

敬愛高校校舎建設に伴い、9億6,000万円を日本私立学校振興・共済事業団から借入れました。

加えて選択定年者等への退職金を含む未払金などにより、負債合計は前年度に比べ9億8,100万円増加しました。

基本金の部は、本年度組入額と本年度取崩額を相殺し、更に過年度基本金繰延額を取崩した事により、2億3,400万円減少しました。

<参考>

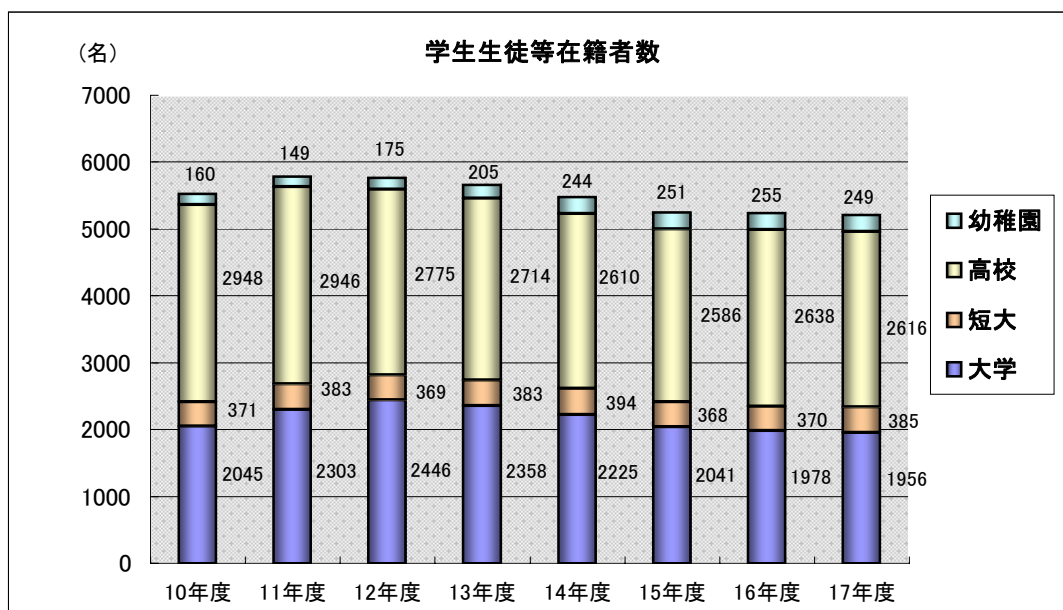
正 味 資 産	14,085	14,334	△ 249
---------	--------	--------	-------

※ 正味資産 = 資産 - 負債 (正味資産 = 基本金 + 消費収支差額)

減 価 償 却 額 の 累 計 額	4,779	4,390	389
基 本 金 未 組 入 額	2,066	1,551	515

当年度消費収支差額は2億4,900万円の支出超過となりましたが、当年度2億3,400万円の基本金取崩しにより、消費収支差額は21億7,200万の支出超過となりました。

(4) 学生数・財務比率などの推移



3 今後の課題

私大を取り巻く情勢も、国立大学法人を含めた学生確保が熾烈を極め、帰属収支において支出超過校が急増しています。本年度は、学校会計基準の改正に伴う基本金の改正及び注記事項の追加が実施され、財務情報の公開における透明性が求められました。この事は学園財政の健全化はもとより、会計方針及び経営状況を正確に判断するために必要な情報の開示であり、広く理解し易い会計制度への変更であると言えます。

第二次中期経営計画（平成14年度～平成18年度）では、千葉敬愛高等学校校舎建設を最大事業として着実に実施してきたところでありますが、次期中期経営計画では敬愛大学改革と併せ稲毛キャンパス整備計画を最重要課題として位置付けて事業計画に取り組んでいるところであります。

この事業の推進へ向けて、建学の精神、教育方針、進学・就職対策、学生相談、学生確保など教職員一丸となって、目標へ取り組むことが公教育を担っている本学園の社会的使命であることを再認識し、更なる向上へ向け改革を一層推進する所存であります。